

第3回(p2) <http://pombo.free.fr/me1848.pdf>

Homme libre et esclave, patricien et plébéien, baron et serf, maître de juran- de et compagnon, bref oppresseurs et opprimés, en opposition constante, ont mené une lutte ininterrompue, tantôt ouverte, tantôt dissimulée, une lutte qui finissait toujours soit par une transformation révolutionnaire de la société tout entière, soit par la disparition des deux classes en lutte.

自由人と奴隷、貴族と平民、領主と農奴、ギルドの親方と職人、つまり搾取するものと搾取されるものは、一定の対立関係の中であって、時には公然と時には隠然と、終わりのない闘争を行ってきた。この闘争はいつも、社会が革命的变化するっていうこともあれば、二つの階級がともに滅びるということもある。そういうふうにして終わってきた。

ギルドというのはドイツでいえば長い歴史があって、いわゆる領主たちから解放された商業都市っていう、ハンザ同盟とか有名ですけど、そういう近代社会の前段階で地域権力を自主的に管理したわけですね。それがギルドで小さなその職人工房と思ってはいけなくて、職人工房の連合体みたいことですよ。ギルドというのが非常に強い権力を行使したわけですね。ドイツはもともとそのギルドが非常に強くてその主人に相当するのは特権階級で、権力者です。コンパニオンというのは職人というふうに訳されているが、ギルドの仲間ですよ。

opprimeurs et opprimés 直訳すれば抑圧するものと抑圧されるものだが、マルクスのいば搾取するものと搾取されるものと言いますね。ちなみに classes を階層と訳していますが、マルクスの表現だと階級の方がいいのじゃないかと思うのですけどね。日本社会みたいに階級がもうなくなって、貴族階級もなければ知識人階級もなくて、へべれけ社会みたいになっていますよね。フランスなんかだと明らかにそういう上流階級と中流階級、下層階級、イギリスもそうですけど、あるんですよ。アメリカはそういうのがなくて、金持ちか金もちでないかという。日本は階級という概念がはっきりあったのは江戸時代くらいまでで、明治からそれがだんだん解体していくわけですね。江戸幕府を流血無しの革命で、クーデターを起こしたわけですよ。貴族院はクーデターでの不満分子の不満を和らげるための装置ですよ。けど実は薩長がちゃんと上手いところでその貴族の階級もかすめ取っているんで、徳川は騙されただけですよ。

無血で革命してしまったから誰も革命だと気が付かないで権力の移行が行われた。徳川幕府なあまりにも無能だったために、近代化に遅れていたのをいわば全体主義国家的な体制で急速に近代化していくわけだけど、本当の近代化を担うべき理念とか何かそういうものがあつたわけではない。西欧列強に追いつけ追い越せという発想しかなくて、それが第2次世界大戦の悲劇まで続いていくということではないんですか。僕は、明治維新が素晴らしい革命だっていう、その維新というのをすごく肯定的に捉える日本人の歴史観は実に怪しいと思っています。根本的に間違っていると思っていますね。

Dans les premières époques historiques, nous constatons presque partout une structuration achevée de la société en corps sociaux distincts <sup>3</sup>, une hiérarchie extrêmement diversifiée des conditions sociales. Dans la Rome antique, nous trouvons des patriciens, des chevaliers, des plébéiens, des esclaves; au moyen âge, des seigneurs, des vassaux, des maîtres, des compagnons, des serfs et, de plus, dans presque chacune de ces classes une nouvelle hiérarchie particulière.

歴史的な第一初期の段階においては、私たちはほとんどあらゆるところで、社会の様々な職業体へと社会を組み立て上げること、社会的な条件の極端に多様化している階層秩序の  
ことを見出すことができる。

古代社会はそうだったと言うんですね。古代バビロニアにしても古代オリエントにしても古代中国にしる、王様みたいなのがいて、それを中心とした官僚組織があって、多くの農民とか職人とかが劣悪な環境の中で労働奉仕を強いられている。ほとんどすべて社会でそうだったと思いますね。記録が実際にヒストリーとして書かれるようになるって言うのは、古代ギリシャの時代からなんですね。古代ギリシャって言っても本当に古代は分からなくて、たとえばタレスに関しては彼自身が書いたものが残ってるわけじゃない。記録がいっぱい残るようになるのは紀元前 300 年くらいユークリッドの時代でもあるんですけども、プラトンとかソクラテスの時代からで、歴史家としてヘロドトスが活躍したのも紀元前 400 年くらい。最初の歴史が描かれたのはそのくらいですね。

だからそれまでは書いたものとして残っているのはほとんどなくて、ただし驚くべきことにそのパピルスとか粘土板とかあるいは中国だったら亀甲文字、竹簡（竹で作った手紙）、そういうものとしてそれなりに残っていた。それは解読されないまま中国でも残っていた。漢よりも前の王朝に関しては殷とか周とかがあるとか言われたけど本当にあったのかなっていうほどずっとわからなかったわけですね。20 世紀に考古学的な大発見があって殷や周が実際存在していたことが証明されたんですね。中国も本当に 5000 年の歴史とかそういうふうに言ってもおかしくないような古い時代が確かにあったということですよ。ただその頃は中国がたまたま漢字の起源に相当する甲骨文字というものがあったんで、かなり解読できるんですけど他の文化圏ではなかなか難しいですね。例えば エジプトなんかでは王様の記録はみんな巨大な神殿とかに彫られてるから、彫刻でもそういう業績が彫られていますから少し解読することができますけれど、例えばマヤ文明とか彼らは文字を書いて残すっていうのはなかったから、われわれは歴史いわばプレヒスリ先史に迫るになかなか決定的な材料がないんですね。

日本の縄文時代も輝ける時代だと僕は思うんですけど、少なくとも土器に関して言えば全然弥生の土器とはレベルが違うって感じしますよね。火焰土器なんて何であんなのを作ったんですかね、素晴らしいと思いますね。ほんとに人間として最も高貴な生き方をしたんだと思うんです。森に対する祈りとか他の動物に対するいたわりとか、もう私たちはすっかり忘れていたようなそういう感性を彼らは持っていたことは確かじゃないでしょうか。

エンゲルスやマルクスに言わせれば、商品をお金に変えるっていうのは恥ずべき行為だと。マルクス

は、「愛はただ愛とだけ交換できるんだ」と。まあそれもロマンティックっていうか、ちょっと現実離れしているかもしれない。

P 2 <註 3> : structuration の元は«Stand»を使用？

Le terme de «Stand» se rapporte plus précisément à l'époque féodale, aux corps sociaux, ou «états», «ordres», dont la situation, la condition, au sein de la société était fixée juridiquement par des droits, des privilèges. Ainsi la bourgeoisie montante constituait le tiers état, après la noblesse et le clergé.

«Stand」という言葉は実は中世により正確に当てはまる。つまり、権利についても特権についても法律によって固定されている社会的国家の中であって、その状況とか条件とかの、社会的な実態、諸国家、身分についての階級という意味で。

このようにして。成り上がったブルジュアジーは、貴族と聖職者に次ぐ第 3 身分を構成することになった。

身分とか秩序そういったものに本来はこの «Stand» (階級) はより結びつくものである。juridiquement 合法的という訳もあまり正しくないのですね。合法的というのは違法しているものに対して捕まえる時の話であって、その法律は王様が発した法律もいいんですよ、要するにこういう風な制度だと議論をすると法律になる。近代社会になる前から、もう実は王政の時代から、その法律によって人々を治めるという法治国家という考え方がほとんど当たり前になる。だから合法的にと言ったら今現在の法律に対して合っているか合っていないかとなる。juridiquement っていうのは社会的に縛られている。

Dans la Rome antique, nous trouvons des patriciens, des chevaliers, des plébéiens, des esclaves; au moyen âge, des seigneurs, des vassaux, des maîtres, des compagnons, des serfs et, de plus, dans presque chacune de ces classes une nouvelle hiérarchie particulière.

古代ローマでは、私たちは、貴族とか騎士とか平民とか奴隷を見出す。それは中世においては封建領主、家臣、ギルドの親方、職人、農奴になった。さらにこれらの階級のほとんどすべての中に新たな階層秩序を見出すことができる。

古代ローマにおいては、社会的な塊に分離するって話が前の文書でしょ。初期の歴史においてからそうになっている。新たな階層秩序っていうものは農奴一括りにしているけど、農奴の親方とかそういう階層秩序ができたりする。それぞれの階級の中にさらにそれぞれ階級秩序がまたできる。

La société bourgeoise moderne, élevée sur les ruines de la société féodale, n'a pas aboli

les antagonismes de classes. Elle n'a fait que substituer de nouvelles classes, de nouvelles conditions d'oppression, de nouvelles formes de lutte à celles d'autrefois.

封建社会の廃墟から出来上がってきた近代ブルジョワジー社会は、階級間の対立を廃止しなかった。ブルジョワジー社会というのは、新しい階級、新しい抑圧条件、新しい闘争形態、それらの古いものと置き換えただけだった。

ブルジョワジーは昔の階級が崩壊した後に成り上がってきた。自分たちが成り上がってきたんだから、これで階級を廃止してみんな平和に公平にやりましょうよと言ってもよかったわけですね。彼らは成り上がったら自分たちが新しい階級を作った。

Cependant, le caractère distinctif de notre époque, de l'époque de la bourgeoisie, est d'avoir simplifié les antagonismes de classes. La société entière se scinde de plus en plus en deux vastes camps ennemis, en deux grandes classes qui s'affrontent directement: la bourgeoisie et le prolétariat.

私たち（マルクス・エンゲルス）の時代、すなわちブルジョワジーの時代の決定的な特徴は、階級対立を単純化したことである。全社会は巨大な敵対する二大部隊、互いに真正面から対立する二大階級：ブルジョワ階級とプロレタリア階級に、ますますより一層分割が進んでいく。

マルクスもエンゲルスも、共産主義というものを綱領として掲げるにあたり現状をどういうふうに認識するか、ということをちゃんとわかっていたので単純化しているわけですね。だけどそもそも綱領の起草をマルクス・エンゲルスに委ねるって言うこと自身が、共産党内部でも誰が良く出来て誰がよくできないのかってということがわかっていたということですね。

中間階級がいなくなる、全体の社会が二極分化するっていう、それがマルクスたちの預言だったわけですね。抑圧するものと抑圧されるものとの戦いだから鮮明にならざるを得ない。

Des serfs du moyen âge naquirent les citoyens des premières communes<sup>1</sup> ; de cette population municipale sortirent les premiers éléments de la bourgeoisie.

中世の奴隷から最初の社会の市民が誕生してきた。  
ブルジュアジーの最初の要素は、この都会的な人々の中から登場してきた。

ブルジョワジーは決してその中世以前から特権的な身分を味わってきた人ではないということが、大事なポイントですね。ブルジョワは世の中の支配者みたいと思って、それが階級的だと思って攻撃する

人がいますけど、実はブルジョワジーは中世までは非常に低い階層の中で埋もれていた奴隷階級であった。その中から機転のきく奴が出てくることで、成り上がりと言すのがいい。

### P 3 <註 1>

Dès la fin du Xe siècle, mais essentiellement au XIe siècle, on assiste en Allemagne à un «mouvement communal». Les bourgs et villes naissantes, jusqu'alors dans la dépendance économique et juridique d'un seigneur, s'organisent pour obtenir leur émancipation (*coniuratio civium* ou *Schwurverband*). Les premières fortifications (palissades puis murailles: *Pfahlbau*, *Stadtmauer*) devenues symboles d'autonomie, datent en Allemagne du XIe siècle; elles apparaissent souvent dans les armes de la cité (Cf. note d'Engels p. 33).

10 世紀の終わりから 11 世紀に、ドイツではいわゆる、共同体運動というものが指摘されている。経済的法的に領主にこれまでの従属の中で生まれた街と農村は、権利(ラテン語では *coniurati civium*、ドイツ語では *Schwurverband*) を手に入れるために努力した。最初の要塞(フランス語では *palissades* とか *murailles*: *Pfahlbau*, *Stadtmauer*) が、ドイツにおいては、11 世紀という日付をつけながら、自治の象徴となったのである。

要塞というとお城みたいだけど、村とか町を囲っていた壁で、その中と外を区別する城壁ですね。10 世紀の古いドイツと新しい商業都市ドイツの大きな境は、都市革命だということ。城の中にはいわば特権的な市民農民が手を組んでいたわけですね。だけど城外にいた農民市民っていうのもいたんじゃないんですか。それが農奴で、城外からブルジョワジーが生まれた。